

# 遺言ソフト

「遺言ソフト」というタイトルだけを聞くと、大半の読者は、法的に有効な遺言書を作成するための専用ソフトのようなものを連想するかも知れないが、今回取り上げるのは、いい意味でその期待を大きく裏切ってくれるユニークなソフトウェアである。

この遺言ソフトは有限会社シーリスが開発した「僕が死んだら…」というフリーウェアで、不慮の事故などで突然この世を去らなければならなくなったとき、PCに保存されている他人に絶対見られたくない情報（プライベートな画像やWinnyなどで違法に取得した動画など）が、誰にも気づかれないうちに密かに完全削除されるという、アイデア勝負の画期的ツールである。

論より証拠、では早速、このユニークなフリーウェアの使い方を紹介していこう。「僕が死んだら…」は、シーリスが運営するソフトウェア配布サイト「[C-LIS Crazy Lab.](http://C-LIS Crazy Lab.)」で手に入る。

ダウンロードが完了したら、そのファイルを解凍し、「whenidie」というファイルを起動する。ソフトウェア使用許諾契約書が表示されるので、それに同意すると図1の画面が表示される。

ここで、自分が死んでしまったとき、自動的にPCから削除したいファイルあるいはフォルダ（つまり、絶対他人に見られたくない個人的な情報あるいは機密情報）と、残された遺族などに読んでもらいたいメッセージファイルを設定する。設定できたら「生成」ボタンをクリックする。すると、指定した削除対象のファイルあるいはフォルダ内に存在する全てのファイルが削除可能かどうかテストされ、図2のような結果が表示される。

なぜ、ここでテストが必要なのか、その理由はファイルを削除する際、書き込みモードでファイルを開いて上書き処理するからである。削除設定したファイルやフォルダを書き込みモードで開く権限がないと削除処理できなくなるので、権限の有無を事前に確認しておく必要があるのだ。

図1 「僕が死んだら…」の設定画面



削除したいファイルと残された家族に向けたメッセージを記録したファイルをそれぞれ設定する。

図2 テスト結果



削除できることを確認した後、生成ボタンでショートカットアイコンを作成する。

テストに合格したら「生成」ボタンをクリックする。すると、遺族に向けたメッセージファイルが暗号化されると同時に、デスクトップ上に「僕が死んだら…」のショートカットアイコンを作成（図3）。

これで、あなたに不測の事態が起こった場合も、家族の誰かがデスクトップ上のショートカットの存在に気づいてダブルクリックしてくれれば、遺族に伝えたいメッセージが表示され、そのバックグラウンドで削除対象になっているファイルあるはフォルダの削除処理がスタートする。

図3 「僕が死んだら…」のアイコン



テストに合格したら「生成」ボタンをクリックする。すると、遺族に向けたメッセージファイルが暗号化されると同時に、デスクトップ上に「僕が死んだら…」のショートカットアイコンが作成される（図3）。

これで、あなたに不測の事態が起こった場合も、家族の誰かがデスクトップ上のショートカットの存在に気づいてダブルクリックしてくれれば、遺族に伝えたいメッセージが表示され、そのバックグラウンドで削除対象になっているファイルあるはフォルダの削除処理がスタートする。

図3のアイコンは通常のデスクトップアイコンと全く同じなので、残された自分の家族がいかにダブルクリックしてくれそうな内容に、自由に名称を変えたり、デザインを変更したりすることができる。名称を変えるには、アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「名前の変更」を選択すればよい。アイコンのデザインを変更するには、同じ手順で表示されたメニューから「プロパティ」を選択し、表示されたダイアログボックスから「アイコンの変更」を選択すればよい。

なお、バックグラウンドで実行される削除処理については一切何も画面表示されないなので、このアイコンを実行した人（遺族など）がファイルの削除処理が行われている事実気付くことはない。また、削除処理では、削除対象のファイルやフォルダの名前が変更されてから上書き処理されるので、通常のファイル復旧ソフトを使ってデータを復元させることはほぼ不可能である。